

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 社会医療法人 共栄会.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0170502777-00&ServiceCd=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、周辺に川下公園や神社・厚別川があり住宅街から少し離れた閑静な場所にある為、自然豊かで、遠くには、山並みが見られ自然が、身近に感じる事が出来る環境にあります。また同一法人が、運営する病院、デイケア、介護老人保健施設があり、援護寮とも併設しており、医療面や災害時など、迅速な対応が出来る。敷地内には、中庭や、花畑があり花壇を楽しんだり、畑作業を楽しんだりしています。また保育所ある為散歩時に挨拶したりしてます。献立は、季節の物や、誕生日等取り入れたりして作成し作っています。入居者様・ご家族に来て良かったと思って頂ける様、心がけて、サービスを提供しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームまいホーム川下」は、川下地区の広大な敷地に運営母体である医療機関、介護老人保健施設、重度認知症デイケアが隣接し、援護寮が併設された3ユニットの事業所である。平成16年開設時から掲げている理念「やすらぎの環境を実現、そして個人の尊厳をめざして」は、このコロナ禍において、地域との関わり、ケアサービスの在り方を再考しなければならない時の原点となり、職員は利用者本位の介護に取り組んでいる。特に仕組みの柱となる共栄会が「新型コロナウイルス対策委員会」を設置し、マニュアルの整備、定期的研修の実施で、徹底的な感染症防止対策を講じており、利用者は外出自粛の中でも状況に応じて隣接のデイケアに通い、馴染みの友人やスタッフとの関係継続が実現されている。法人の力を最大限に活用し、医療面での迅速な対応、災害対策、研修など密接な連携の下に介護支援体制を整えている。看護師でもあるホーム長は常に利用者の健康に気を配るなど、安心な生活を担保している。コロナ禍で楽しみとなる食事は様々な場面で旬の食材は勿論、畑の野菜も食卓を彩り、要望に応え寿司や仕出し弁当の出勤も取り入れ、利用者の満足度を高めている。スキルの高い職員に恵まれ、ホーム長を中心としたチームケアで、やすらぎと尊厳のある生活の実現に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-62).

自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時からの理念を受け継いで、新入職員には理念の説明を行い、他職員も1年に一回確認の機会を設けている。日々の介護に沿ったものであるか、ミーティング等で確認しあっている。	利用者一人ひとりの尊厳を念頭に置いた理念を開設当初から掲げ、重要事項説明書や事業所の要所に掲示し、職員は常に携帯する事で意識を高めている。新人採用時での説明、日々の申し送り、会議の場で共有しケアの実践に活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス蔓延の為、全ての行事が出来なくなってしまったが、夏まつりなど楽しみにされている方もいる為再開できる時がきたら協力したい。	昨年度から公の行事は中止となっているが、散歩時で保育園児との交流、病院売店や地元買い物でのふれあい、デイサービスに通い地域住民と関わりを持つなど、コロナ禍に在っても孤立する事の無い暮らしを支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス蔓延の為、運営推進会議にて日々の実践(食中毒、認知症の理解)が発表できていない。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では包括支援センター職員の方に来て頂き、勉強会や現況報告行っている。	現在は、事業所職員と包括支援センター職員の参加を得て2ヵ月毎に開催している。利用者及び職員の状況、運営活動に加えて、食中毒、感染症対策など毎回タイムリーなテーマを選び、情報の提供に努め、議事録は各委員と全家族に配布している。	会議録に事故・ヒヤリハットの項目を加えて、事業所の透明性を図ることを期待する。参加出来ない推進委員の意見や提案、情報などの聞き取りを工夫し、書面上で意見交換が行われ、運営に反映されることを期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保護課の方との電話を利用している、入居者さんとの面談やスタッフとの聞き取り等連携を取っている。管理者会議が、白石区、札幌市それぞれあり、情報交換、協力関係に取り組んでいる。	保護課担当窓口にはホーム長が頻繁に出向き、利用者の暮らしの改善に向け、指導や協力を仰いでいる。空き情報、感染症対策、運営上の案件等に関しては、電話やFAXを活用し、書類は郵送にて提出し、協働関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族と入居者さんに説明し不審者対策の為、集合玄関を施錠する。3か月に一度の委員会を行い、日頃のケアが身体拘束につながっていないか具体例をあげて確認している全スタッフが年2回、新規採用時に身体拘束の勉強会、アンケート記入を行っている。	身体拘束防止は理念の「個々の尊厳をめざして」につながる部分でもあり、指針を基に適正化委員会及び内部研修をユニット合同で定期開催し、正しいケアの周知徹底を図っている。職員研修実施調査を行い、職員自ら気付き、意識を高め、抑圧感の無い支援に努めている。玄関の施錠、居室内センサーの使用は家族の同意を得て実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフで高齢者虐待の勉強会をし、支援する側される側に上下関係が生じないように意識している。不適切なケアの事例をもとにホームでも日頃のケアが相手の尊厳を傷つけていないか確認し合う。スタッフ同士協力しあい虐待が発生しないよう言い合える雰囲気作りをしている。			

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援	全スタッフで権利擁護についての勉強会を年に1回行っている。現在制度を利用している入居者さんはいないが、必要に応じて利用する事になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の時等に利用者、ご家族の話をよく聞き不安・疑問に対応している。解約、改定の際も十分な説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族さんの意見を聞き毎月のお便り、写真でホームの状況を報告。又コロナで直接面会出来ないのがガラス越しの面会等で積極的交流に心がけている。	家族との面会は玄関のガラス越しで行われ、互いの安否を確認している。領収書郵送時には写真を添えて最近の状況を報告し、ホーム便りも毎月発行して喜ばれている。ユニットリーダーは、家族の不安やストレスを取り除くように都度電話連絡を行い、思いや要望を汲み取り、可能な限り対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階月1回のミーティングを行い、その他職員の意見を聞くように心がけている。個人面談にも努めている。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、定期的なミーティングや会議、都度の個人面談で、意見や提案を聞き取っている。職員は各役割を担いケアやレク等に活かし、ユニット間の枠を超えた職員の連携体制が取られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、人事考課を行っており、その結果を昇給に反映している。勤務状況では残業があまり無く休暇も取得しやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力をとらえるようにしている。コロナの終息が見えない為、法人内外の研修の中止が多い。ホーム内での研修継続に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ここ数年コロナ禍で交流の機会づくりが難しくなってきたが、感染対策の勉強会に取り組み強化している。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化によって不安などから食欲不振や拒薬など訴える方、どうしてここに入るのか繰り返し訴えがある方様々で傾聴して、可能な範囲で本人の希望を聞き安心して頂く		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談、見学などで要望や不安な事をお聞きし(大半がこちらから聞く事が多いが)入居してから、生活に慣れるくらいまでは電話等でやりとりを行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望、ADL、認知症の症状、内科疾患に合わせ、支援する事を話し合い出来る範囲ではあるが対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やお話しを一緒にしたり時間を共有している。茶碗拭きや洗濯たたみなど、本人のもつ力を発揮して頂き、スタッフより感謝の言葉伝えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	対応の中で困った事やこんな反応があった・・等相談し以前の情報やアドバイスを頂いている。本人が家族の事は話す場面があった時の様子や訴えなどお伝えし、いい時も悪い時も一緒に考えてもらえるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為面会や外出が制限されているがご友人などと電話をできるように対応している。	9月から理美容の訪問が開始されている。コロナの感染状況を見極め乍ら、利用者はデイケアに通い、地域住民や職員と馴染みの関係を紡いでいる。家族や友人との電話や手紙のやり取りを支援し、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子から人間関係を把握して妄想や過干渉に配慮しながら、食事席、ソファーなどでコミュニケーションが生まれるように見守っている		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に入居者さんのご家族より連絡を頂きその後の経過を聞くことはある、必要があれば支援に努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に帰りたい方、病院を経てホームで暮らしを創っていく方、健康状態を維持し周りに見守られホームで安心して生活したい方様々おられ意向を把握できるよう努めている。	会話が可能な利用者が殆どで、日常のやり取りの中で「欲しいもの、食べたい物」など聞き取り、望む暮らしを支援している。困難な場合は職員の些細な気付きやセンター方式を活用して得た情報等を共有し、本人の視点に立ち検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前施設からの情報、又は本人やご家族からのお話を聞き、生活に反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神状態、申し送り、記録、バイタル、食事量など様子を把握。体調をみながら休む時間と活動時間のメリハリをもち昼夜逆転にならないよう努めている。簡単な掃除など出来るような方、介護度の高い方は食べる事、歩く事など観察し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態や発言、家族の要望など踏まえホームで出来る事をミーティングや申し送り時などを利用して、気づきや意見を出し合っている。安心した生活、ADLの維持につながる介護計画を作成できるよう努めている。	日々の気付きや身体状況、本人、家族の希望等を動かし、担当職員が中心となり管理者や計画作成者と共に課題分析や評価を行っている。ミーティングでは職員が情報を持ち寄り検討を重ね、利用者主体の暮らしを反映した介護計画が、3～6月毎に見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の記録に介護計画をファイルして実施している。体調不良、精神状態の変化で頓服薬を内服した時の反応やスタッフが対応を工夫してみてもどうだったかを個別に申し送り時間を使って情報共有、検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で個人の要望に耳を傾けニーズの発生があれば、管理者に相談して決めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍である為、町内会、法人のお祭りなどイベントが制限されている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内に病院があり、24時間連絡や相談ができる。又状態に合わせ必要な医療機関に受診できるようにしている。他科受診などは家族の協力を出来る範囲で頂きながら、ホーム長スタッフが定期受診に対応している。	隣接の運営母体である協力医療機関は、24時間の連携体制が整い、全利用者がかかりつけ医としている。皮膚科医は毎月1度の往診を実施し、他科受診は家族及び職員が担っている。看護師資格者であるホーム長が、日常の健康管理や適切な受診支援に努めている。	

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長、外来看護師へ入居者さんの体調の変化など相談し、適切な医療が受けられるよう助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護添書の提出、認知の状態を説明している。病状説明など情報交換を行っている。退院時についてはホームでの生活ができるかワーカーより情報を頂き、対応を検討している。家族がキーパーソンとなる場合もあるので情報を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化した場合の対応(ターミナルは行ってない)指針を説明、同意して頂いている。回復の見込みが無い場合本人の意思を尊重し、入院先の病院と話しあっている。医療が必要になった時点でトイカ病院に入院すると決めている入居者さん、家族が多い。	契約時に重度化や終末期に関する指針を基に、看取りを行っていない旨を説明し同意を得ている。運営母体が病院である安心から入居を決めている利用者、家族が多い。日常生活が困難な状況時には転院の意向を示しているが、再度家族の意思を確認し、主治医とも方針を共有して、思いに沿った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルに添い、ミーティング時など利用して確認している。入居者さんに予測される窒息などホースと掃除機をつなげて練習している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行い(コロナ禍の為ホーム内で最小限)地震、水害の対応については警報が発令された時点で食料品や薬を持ち、2階へ避難するよう年に1回訓練している。	年2回の夜間想定火災避難訓練及び年1回の水害避難訓練の垂直移動は、コロナ禍に在り、机上訓練を加えて事業所単独の自主訓練を実施している。マニュアルを整備し、非常用の食料、防寒器具類の備蓄を確保している。業務継続計画の策定に向け検証している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、態度や表情を観察して対応する。トイレ、入浴時などのプライバシーには特に配慮している。	人格の尊重を示した理念に沿って、職員はケアサービスの基本を理解し、排泄時では目立たずさり気ない声掛けや誘導を心がけ、入浴時では可能な限り同性介助の希望に沿って支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	直接本人より思いや希望を聞いたり、表情や言動から思いをさぐり、自己決定が出来る様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース、習慣を大切に職員側の都合を優先せず、本人の希望に添えるよう支援している。「今日は天気がいいから外に行きたい」「今日はデイケアに行きたくない」		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわり、好みを大切に自身で洋服を選んでもらう様支援している。又、気温に合わせ体温調整できるよう支援している。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や誕生日メニューを取り入れ、職員が献立を考えている。彩り等も見た目で楽しんで頂けるように工夫を心がけている。	献立は一部業者に委託しているが、利用者の好物や栄養バランス、畑の食材も活用してユニット毎に作成している。誕生会や行事会ではケーキ、チラシ寿司、仕出し弁当などの出前から、好物の赤飯、炊き込みご飯なども作り、利用者に喜ばれ会話も弾んでいる。調理作業は得意分野を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態や好みに応じ、咀嚼力、形態に配慮して提供を行っている。摂取量が少ない時は栄養飲料を提供。水分摂取量についても確認し、好みにあった飲料水を数種類用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は毎晩、洗浄・除菌を行い、毎食後の口腔ケアは見守り介助で清潔を保持している。定期的に歯科で口腔ケアを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の羞恥心やプライドに配慮し、個々の排泄パターンや行動を見て、トイレの声かけ誘導している。失禁のある方は尿取りパット、リハビリパンツ、軽失禁パットを失禁状況に応じて必要最小限に使用している。	トイレ排泄を基本とし、一人ひとりの排泄パターンや動きを見て、声掛け、誘導、見守りを行い支援している。衛生用品の使用は皮膚疾患への配慮、安心、安全に向け調整する等、身体状況に合わせ快適さを求めて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘があると落ち着かなくなったりする事や便が硬くなり出にくくならないよう、日頃から乳製品を摂取し、個人に処方された追加下剤を内服しスムーズな排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、入居者の体調に合わせて入浴を行っている。必要に応じ介助を行い、コミュニケーションをとりリラックスして頂いている。	入浴は週2回を目安に、体調や生活習慣に合わせて、好きな方はゆっくりと湯船に浸かり、シャワー浴や足浴、清拭など、個々に沿って支援している。デイケアの利用者は大浴場を満喫している。入浴剤や湯上りの冷たいドリンクが楽しみの一つになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠状況を見守り、中途覚醒時はトイレ誘導等を行い再入床を促している。不眠時は頓服薬など用意している。又、個別で日中も休む時間をつくり、体調を維持している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の目的、副作用を理解し、用法容量の確認をして慎重に取り扱っている。処方変更時は体調観察を小まめに行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	袋たたみ、メモ帳作り等ひとり一人に合わせた役割にてやりがいを感じて頂けるよう支援している。散歩、等による気分転換も図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩の声かけを行い、畑の野菜などの生長を楽しんだり花壇の花を見たりと身近な物を楽しんでいる。	コロナ禍にあっても、感染症防止対策を講じながら、畑作業、周辺の散歩、買い物、公園の紅葉散策、受診、デイケアに出かけるなど、人々との触れ合いと気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の年金や預金などわかる方に関しては、生活用品など必要な物を希望に応じ買い物できる付き添っている。衣類などはカタログショッピングで購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば手紙、ハガキ、電話の仲介を行い、家族との繋がりをもち安心した生活が送れる様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けを行ったりスナップ写真を掲示する事で、四季を感じコミュニケーションを図り楽しく居心地のよい空間作りをしている。転倒防止の為、テーブル・ソファの位置に配慮している。	リビングには季節を感じさせるクリスマスグッズや利用者との共同作品、スナップ写真、食卓には生花が飾られ癒しの空間になっている。現在は感染症対策に注意を払い、エアコン、空気清浄機が設置され、温湿度、除菌、脱臭、換気に努め、快適さと安心を提供し、皆で寛げる環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVや音楽を楽しんだり、雑談が出来る居場所づくりの支援をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾り、なじみのある家具を使用したりして心地よく過ごして頂く工夫を行っている	居室にはクローゼットが設置されている。生活に必要なベット、筆筒、机、テレビ、仏壇など極力馴染みの品を持ち込んで頂き、転居による戸惑いを少なくしている。配置も動線を考慮し、家族写真や自作品など飾り、心地よく休息出来る居室を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身の部屋がわかるように自室前に表札を出したり、安全な移動ができるよう、大きく場所の表記をしたり工夫を行っている。		